

VMware Horizon

Q：VMware Horizon について教えてください

A：VMware Horizon® は、あらゆるクラウドから Windows サービスやオンライン サービスを提供することを目的に設計された、デスクトップおよびアプリケーション仮想化ソリューションの製品群です。Horizon では、データセンターからデバイスまで仮想化技術を適用することで、優れたユーザー使用環境、クラウドドロープ型の管理、ハイブリッドクラウドの柔軟性を備えたデスクトップとアプリケーションの提供が可能です。

VMware Horizon には、Horizon 7 の各エディション、Horizon Apps、Horizon Cloud、Horizon FLEX などのパッケージが含まれます。Horizon 7 は、データセンター内で実行する仮想デスクトップおよび仮想アプリケーションのプラットフォームです。IT 部門にシンプルで一元化された管理機能を提供し、エンド ユーザーにはデバイスや場所を問わず仮想デスクトップと仮想アプリケーションを提供します。Horizon Apps は、Horizon 7 のテクノロジーを活用することで、仮想デスクトップが必要ないユースケースの際に公開アプリケーションのみを提供できるプラットフォームです。VMware Horizon Cloud Service™ は、オンプレミス、または自社データセンターの外部から、クラウドホスト型のサービスとして仮想デスクトップや仮想アプリケーションを提供します。VMware Horizon FLEX™ は、ローカルの物理 PC やラップトップ上で実行できるコンテナ化された仮想デスクトップを提供、管理します。

VMware Horizon 7

Q：Horizon 7 について教えてください

A：Horizon 7 により、IT 部門は、単一のプラットフォームから仮想/RDSH 公開デスクトップや仮想/RDSH 公開アプリケーションをエンド ユーザーに提供できます。また、これらのデスクトップや、RDS ホスト型アプリケーション、VMware ThinApp® で仮想化したアプリケーション、SaaS アプリケーション、Citrix の提供する仮想アプリケーションを含むアプリケーションサービスには、単一の統合ワークスペースからアクセスできます。これにより、ユーザーが望むスピードとビジネスに必要な効率性を満たしながら、エンド ユーザーが必要とするすべてのリソースを提供できます。Horizon 7 には次の 4 つのエディションがあります。

- **Horizon Standard Edition**：優れたユーザー使用環境を提供する、シンプルで強力な仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI)

- **Horizon Advanced Edition**：統合ワークスペースを使用して、デスクトップとアプリケーションを費用対効果に優れた方法で提供
- **Horizon Enterprise Edition**：クラウドの自動化機能と管理機能を使用してデスクトップとアプリケーションを提供
- **Horizon Air with On-Premises Infrastructure**：Horizon Air サービスを Horizon 7 のクラウド管理型インフラストラクチャおよびデスクトップと組み合わせて提供（日本市場では未提供）

Q：Horizon Apps について教えてください

A：Horizon Apps は、セッションベースのデスクトップを含む公開 (RDS) アプリケーションの提供と管理に重点を置いたパッケージ製品です。Horizon 7 を基盤とするこの製品には、Standard と Advanced の 2 つのエディションがあります。どちらの製品にも、管理を簡素化し、優れた使用環境を実現するためのツールや機能が備わっており、公開アプリケーションをセキュアかつ確実に配信できます。Horizon Apps Advanced では、VMware Instant Clone™ テクノロジーを活用するジャストインタイムのアプリケーション配信により、アプリケーションの管理が効率化されます。また、VMware App Volumes™ によって管理する必要があるイメージの数が削減されます。

Q：Horizon 7 と Horizon Apps は、それぞれどのようなユースケースに適していますか？

A：Horizon 7 と Horizon Apps のどちらでも、公開 RDS アプリケーションをセキュアかつ確実に配信および管理できます。これにはセッションベースのデスクトップも含まれます。Horizon 7 の場合は仮想デスクトップも提供され、信頼性とパフォーマンスに優れたパーソナライズされたデスクトップを使用できます。高いパフォーマンスと信頼性、パーソナライゼーションが必須ではない場合は、セッションベースのデスクトップが便利です。Horizon 7 の各エディションでは、VMware vRealize® Operations™ for Horizon や VMware vSAN™ などの優れた機能や製品も提供されており、お求めやすいバンドル価格でご利用いただけます。

Q：Horizon 7 の主な機能について教えてください

A：Horizon 7 は、仮想デスクトップおよびアプリケーション仮想化の機能を拡張することで、優れた運用効率を低コストで実現しながら、業務環境のモバイル化をサポートします。

Horizon 7 の主な機能

デスクトップおよびアプリケーションを単一のプラットフォームで提供

- 単一のプラットフォームから仮想 / 公開デスクトップと仮想 / 公開アプリケーションを提供して、管理の効率化、エンドユーザーへの権限付与の簡素化を実現し、デバイスや場所を問わずに、エンドユーザーに Windows/Linux デスクトップおよびアプリケーションを迅速に提供
- Horizon 7 は、Microsoft Remote Desktop Service (RDS) を利用した Windows Server インスタンスから提供されるホスト型の Windows アプリケーションや共有デスクトップ、仮想デスクトップ、ThinApp でパッケージングされたアプリケーションを単一のプラットフォームから提供
- RHEL、Ubuntu、CentOS、NeoKylin など、Linux ベースのオペレーティングシステムのデスクトップと、Windows デスクトップの両方をサポート

スマート ポリシーと効率的なアクセス

Horizon 7 では、統合デジタルワークスペースからデスクトップやアプリケーションに簡単かつセキュアにアクセスできます。これには、RDS ホスト型アプリケーション、VMware ThinApp でパッケージングされた ThinApp アプリケーション、SaaS アプリケーションのほか、Citrix 製品で仮想化されたアプリケーションも含まれます。IT 部門は、非常に厳格な基準に基づいてデスクトップやアプリケーションを保護できるほか、Active Directory や LDAP など、複数の ID ソースの管理を効率化して、エンドユーザーのアクセスを効率的に管理できます。エンドユーザーは、VMware Identity Manager™ から、シングル サインオン (SSO) で VMware Content Locker™ にサインインできます。また、VMware AirWatch® Mobile Device Management™ も使用している場合は、個人のデバイスを登録することも可能です。

Horizon 7 は次の機能をサポートしています。

- 許可されたトラフィックのみがコンピューティング サービスにアクセスできる、シームレスでセキュアなアクセスの提供
- 複数の ID ソースにまたがる効率的な ID 管理。エンドユーザーは単一の統合ワークスペースを介して、ユーザーの属性などに応じてリソースにアクセスでき、アクセスをカスタマイズすることも可能
- ユーザーの属性や役割に基づいたセキュリティをサポート。ユーザー、デバイス、場所に応じて、容易にポリシーを割り当て可能

- True SSO によるユーザー アクセスの簡素化によって、1 回クリックするだけで、パスワードを入力することなく Windows デスクトップ サービスにログイン可能
- 迅速なエンド ユーザー アクセスと、2 要素認証、スマートカード認証、指紋での生体認証機能によるリアルタイムでのアクセス検証
- FIPS 140-2 に準拠することにより、すべての暗号化が Common Criteria (Common Criteria) に準拠しているかを確認

ユーザーの使用環境の変革

Horizon 7 では、Blast Performance 機能を使用したデジタルワークスペースを通じて、デスクトップおよびアプリケーションをエンドユーザーに提供できます。これにより、デバイス、場所、メディア、接続方法を問わず一貫した使用環境が実現します。また、PCoIP と最新の Blast Extreme プロトコルのどちらかを柔軟に選択できます。Blast Extreme Adaptive Transport (BEAT) により、社内 LAN から公衆 Wi-Fi やモバイル ネットワークにいたるあらゆるネットワークで、常に優れた使用環境を提供します。

統合ワークスペースを通じて提供および利用できるアプリケーション

- XenApp 5.0 以降
- Windows Server 2008 以降向けの Microsoft RDS ホスト型のアプリケーションおよびデスクトップ
- SaaS アプリケーション
- ThinApp 5.0 以降
- DaaS のデスクトップおよびアプリケーション

最新のアプリケーション ライフサイクル管理

Horizon 7 は、IT 部門によるユーザーのコンピューティングリソースの確実な管理、監視、保護を支援します。

Horizon 7 に含まれる機能は次のとおりです。

リアルタイムでのアプリケーションの配信と管理

- ボタン 1 つで容易に公開アプリケーションの規模を拡大し、展開時間を 5 ~ 10 倍高速化するとともに、イメージの無秩序な増加を防止
- 緊密に連携するスタックと少数のコンポーネントによる展開の簡素化により、競合他社のソリューションと比較して展開や規模拡大時に必要な手順を半減
- アプリケーションを容易にパッケージングして互換性の問題を回避
- 大規模な環境でアプリケーションを即座にプロビジョニング

- アプリケーションを一意にキャプチャおよび分離。また、単一の AppStack からユーザーまたはユーザー プールに、オンデマンドでアプリケーションを個別に追加 / 削除
- ユーザーが各自のデスクトップにログインしているときにも、アプリケーションをユーザー、グループ、デバイスに動的に関連付け
- アプリケーションをリアルタイムでプロビジョニング、配信、アップデート、削除

ユーザー環境の管理

VMware User Environment Manager™ は、あらゆる仮想環境、物理環境、クラウドベースの環境全体に、パーソナライゼーションと動的なポリシー設定機能を提供します。

- 既存のインフラストラクチャを利用する、単一のスケーラブルなソリューションを提供することで、エンド ユーザーのプロファイル管理を簡素化
- エンド ユーザーに Windows のワークスペースやアプリケーションへの迅速なアクセスと、パーソナライズされた一貫した使用環境をデバイスや場所を問わず提供

イメージ管理

- デスクトップおよびアプリケーションのプロビジョニングと権限付与のサポート
- VMware Mirage™ の統合イメージ管理をサポートすることにより、複数の仮想データセンターにわたって、物理マシンおよび完全なクローンの仮想マシンを効率的に管理

分析および自動化

- VMware vRealize® Operations™ for Horizon を使用したクラウド分析により、Horizon のデスクトップおよびアプリケーション環境に加え、Citrix XenApp および XenDesktop 7.6 環境の全体にわたる包括的な視認性を提供。IT 部門はデスクトップ サービスやアプリケーション サービスの健全性とパフォーマンスの最適化が可能

Software-Defined Data Center 向けに最適化

- Horizon 7 は、仮想コンピューティング、仮想ストレージ、仮想ネットワークおよびセキュリティによる仮想化を拡張することで、コスト削減、ユーザーの使用環境の向上、より優れたビジネスの俊敏性を実現します。
- SE Sparse, vStorage APIs for Array Integration (VAAI)、Storage Acceleration などの VMware vSphere® が提供するストレージ最適化機能を利用でき、優れた使用環境をユーザーに提供しながら、ストレージ コストを削減できます。

- Horizon 7 with VMware vSAN Advanced for Desktop では、ストレージのプロビジョニングを自動化し、直接接続型ストレージ リソースを活用して、デスクトップ ワークロードにかかるストレージ コストを削減できます。Horizon はオールフラッシュ機能に対応しており、分散環境全体で、より多くのエンド ユーザーを低コストでサポートできます。
- Horizon 7 を Virtual Volumes™ と連携させることで、NAS および SAN のストレージ管理とポリシー設定が簡素化されます。また、ブロック ストレージや NFS に View® Composer™ Array Integration (VCAI) のメリットを提供し、オフロードにかかる時間を短縮して、より充実した SLA を提供し、パフォーマンスを向上させることができます。
- VMware vSAN ReadyNode およびその他のハイパーコンバージド インフラストラクチャ アプライアンスでは、vSAN と Software-Defined Data Center (SDDC) の機能を活用することで、物理デスクトップからハイパーコンバージド アプライアンスを備えたセキュアな仮想ワークスペースへ、費用対効果を高く保ちながら迅速に転換できます。購入、導入、管理が容易なこのハイパーコンバージド アプライアンスは、拡張が可能で、優れたパフォーマンスを一貫して実現します。
- VMware NSX® を Horizon 環境に導入することで、デバイスや場所を問わずエンド ユーザーに動的にセキュリティ ポリシーを適用しながら、迅速かつシンプルな仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI) ネットワークを実装することが可能です。このソリューションの詳細および Horizon 環境に VMware NSX を導入する方法についてご確認ください。

柔軟なサブスクリプション方式の料金プラン

サブスクリプション方式の料金設定により、オンプレミスのクラウド管理型デスクトップおよびインフラストラクチャを提供する Horizon Cloud Service を、単一の安価な年額料金でご利用いただけます。

- VMware が管理するインフラストラクチャを含むクラウド サービスおよびお客様の IT 部門が管理するオンプレミス上で稼働するデスクトップを柔軟に組み合わせて、年間契約の締結が可能
- VMware が提供する完全なクラウドホスト型デスクトップおよびアプリケーション サービスを、幅広いオプションから選択して、予測可能な低コストで利用可能
- Horizon Enterprise の無期限ライセンスでは、サポートおよびサブスクリプションの更新時に Horizon Cloud サービスを割引料金で利用可能

Q：Horizon の各エディションの内容を教えてください

A：Horizon 7 Standard、Horizon 7 Advanced、Horizon 7 Enterprise、Horizon Apps に含まれる機能については、下記の表を参照してください。

Q：VMware Horizon (with View) (旧称 Horizon View) はどうなるのですか？

A：View™ は現在も、単体製品の Horizon Standard Edition として同時接続単位で、以前の Horizon View Premier バンドルと同等の価格でご購入いただけます。優れたユーザー使用環境を提供する、シンプルかつ強力なデスクトップ仮想化ソリューションが必要な場合は、Horizon Standard Edition を検討してください。Horizon を最大限に利用し、これらのメリットを VDI 以外でも活用して、単一の場所からあらゆるデスクトップとアプリケーションにエンド ユーザーがセキュアにアクセスできるようにするには、Horizon Advanced Edition をご購入ください。

デスクトップとアプリケーションの提供だけでなく、クラウドの管理、自動化、オーケストレーションの機能を利用するには、Horizon Enterprise Edition を選択してください。

Q：Horizon Enterprise Edition は View Enterprise Edition と同じですか？

A：いいえ。Horizon Enterprise Edition は、Horizon のポートフォリオにおけるもっとも包括的なソリューションです。View Enterprise Edition は 2013 年で提供終了となりました。有効なサポートおよびサブスクリプション (SnS) をお持ちの View Enterprise Edition のお客様には、引き続きサポートが提供されます。また、新しい Horizon の任意のエディションにアップグレードすることも可能です。

Horizon 7 の各エディションの機能

機能	サブコンポーネント / 製品	Horizon for Linux	Horizon Standard	Horizon Advanced	Horizon Enterprise	Horizon Apps Standard	Horizon Apps Advanced
ライセンス権限							
同時接続ユーザー単位		○	○	○	○	○	○
指定ユーザー単位				○	○	○	○
サブスクリプション料金プラン							
デスクトップおよびアプリケーション							
Windows 仮想デスクトップ	VMware Horizon		○	○	○		
Linux デスクトップ	VMware Horizon for Linux	○			○		
統合ワークスペース：XenApp、RDSH、SaaS、ThinApp	VMware Identity Manager Standard			○	○	○	○
公開アプリケーション (RDSH) およびセッションベースのデスクトップ	RDS 公開アプリケーション			○	○	○	○
アプリケーションのパッケージング	VMware ThinApp		○	○	○	○	○
Blast Extreme プロトコル	VMware Horizon	○	○	○	○	○	○
Session Collaboration	VMware Horizon				○		
Virtualization Pack for Skype for Business	VMware Horizon			○	○		
アプリケーションとデスクトップへのシングルサインオンアクセス	VMware Identity Manager Standard Edition			○	○	○	○
VMware vCloud Connector	Horizon Air Cloud Managed						

機能	サブコンポーネント / 製品	Horizon for Linux	Horizon Standard	Horizon Advanced	Horizon Enterprise	Horizon Apps Standard	Horizon Apps Advanced
Workspace Environment Management							
イメージ管理							
物理デスクトップのイメージ管理	VMware Mirage			○	○		
デスクトップとアプリケーションの管理							
リアルタイムでのアプリケーションの配信	VMware App Volumes				○		○
Instant Clone テクノロジーによるジャストインタイムデリバリ	VMware Horizon				○		○
ユーザー環境の管理							
ユーザー、プロファイル、ポリシーの管理	VMware User Environment Manager				○	○	○
クラウドの分析と運用管理							
Help Desk Tool	VMware Horizon				○		○
運用ダッシュボード：健全性の監視とパフォーマンス分析	VMware vRealize Operations for Horizon				○		
キャパシティ管理：プランニングと最適化	VMware vRealize Operations for Horizon				○		
インフラストラクチャ							
ストレージ							
仮想ストレージ	VMware vSAN Advanced for Desktop (オールフラッシュ)			○	○		
デスクトップ インフラストラクチャ							
クラウド インフラストラクチャ	VMware vSphere Desktop と VMware vCenter® Desktop	○	○	○	○	○	○

Q : Horizon Enterprise と VMware Horizon Suite の違いについて教えてください

A : Horizon Enterprise には、ファイル共有のサポートを除くすべての VMware Horizon Suite の機能が含まれます。ただし、Horizon Enterprise には、Horizon Suite に含まれていない機能も含まれています。たとえば、RDS ホスト型アプリケーションやデスクトップのサポート、App Volumes によるジャストインタイム アプリケーション配信、vSAN ReadyNode などです。

Q : VMware Identity Manager について教えてください

A : VMware Identity Manager は、サービスとしての ID (IDaaS) 製品です。アプリケーションのプロビジョニング、セルフサービスカタログ、条件に基づいたアクセス制御に加えて、SaaS アプリケーション、Web アプリケーション、クラウドアプリケーション、ネイティブ モバイル アプリケーションへのシングル サインオン (SSO) 機能を提供します。Microsoft Windows Remote Desktop Services、XenApp 5.0 以降、ThinApp、SaaS、View を使用した仮想デスクトップなどを実行するアプリケーションやデスクトップへのアクセスもサポートします。また、IT 部門に対しては、レポート生成、ポリシー アクセス、展開を統合管理する機能をバック エンドで提供します。VMware Identity Manager Standard は Horizon Advanced と Horizon Enterprise に含まれています。

Q : Blast Performance について教えてください

A : Blast Performance は、Horizon 7 に含まれる包括的なテクノロジー セットです。デバイス、場所、メディア、接続方法を問わず、エンド ユーザーに常に優れた操作性を提供します。Blast Performance の機能は次のとおりです。

- **Blast Adaptive UX** : WAN と LAN を使用した HTML ブラウザー経由のアクセス、PCoIP プロトコルまたは Blast Extreme プロトコルを使用した Horizon Client 経由のアクセスの最適化。Blast Extreme は、業界標準の H.264 に基づき、モバイルクラウド環境専用に開発および最適化された、新しいプロトコル
- **Blast Extreme Adaptive Transport (BEAT)** : 企業 LAN から公衆 Wi-Fi やモバイル ネットワークに至るまで、さまざまな種類のネットワークで優れたユーザー使用環境を実現
- **Blast Multimedia** : 高性能のマルチメディア ストリーミングにより優れたユーザー使用環境を実現
- **Blast 3D** : ワークステーションレベルのパフォーマンスを提供する機能豊富なグラフィック仮想化機能を提供

- **Blast Live Communications** : 完全に最適化されたユニファイド コミュニケーション機能や、Real-Time Audio-Video (RTAV) のサポート。Horizon 7 は、Windows 10 上での Microsoft Lync の使用をサポート
- **Blast Unity Touch** : デバイスを問わず、コンテキスト ベースの直感的に使用できるユーザー使用環境を提供。これにより、Windows をモバイル デバイスで容易に操作することが可能
- **Blast Local Access** : USB や周辺機器などのローカル デバイスへのアクセス
- **Horizon Clients for Blast** : デバイスの種類や場所を問わず、一貫した最高クラスの使用環境を実現する統合クライアント

Q : Session Collaboration について教えてください

A : Session Collaboration により、複数のユーザーが同じデスクトップを表示、変更できます。医療機関、設計、エンジニアリング、教育機関における共同レビュー、設計の反復、トレーニングに非常に役立ちます。デスクトップの所有者は、自分のデスクトップに複数のユーザーを招待して、リアルタイムで共同作業を行うことができます。すべてのユーザーに優れた使用環境が提供されます。

Q : 3D 対応と記載されていますが、Horizon は NVIDIA vGPU をサポートしていますか？

A : VMware Horizon は NVIDIA GRID vGPU をサポートしており、仮想デスクトップや RDS ホスト型アプリケーションを介して、リアルな 3D グラフィックをクラウドからセキュアに提供できます。デバイスや場所を問わずに容易にアクセス可能で、コストの削減や最適化が可能です。

Q : RDS ホスト型のアプリケーションとデスクトップに対応する Horizon の機能にはどのようなものがありますか？

A : VMware は、RDS ホスト型のアプリケーションおよびデスクトップ向けに、印刷、USB フラッシュ ドライブ、イメージング デバイスやスキャナー、HTML アクセス、Google Chrome クライアント、マルチメディア リダイレクト、ファイルの関連付け、Skype for Business (Lync 2013) のサポート、NVIDIA GRID vGPU のサポートなど、多くの機能を提供しています。

また、Linked Clone や Instant Clone を使用した RDS ホスト型アプリケーションのサポートも提供しています。これにより、IT 部門は RDSH サーバファームを迅速にアップデートでき、優れたユーザー使用環境を実現しながら、ロードバランシングのサポートを利用可能です。さらに、Cloud Pod アーキテクチャでホスト型アプリケーションもサポートします。規模の大きい分散したインフラストラクチャの構築と、遠隔地からの RDS ホスト型アプリケーションおよびデスクトップへの容易なアクセスが可能です。

Q：Horizon は、Windows オペレーティング システムに加えて Linux オペレーティング システムにも対応していますか？

A：はい。Horizon Enterprise は、Linux (RHEL、Ubuntu、CentOS、NeoKylin) と Windows の両方をサポートします。

Q：Workspace Environment Management について教えてください

A：Workspace Environment Management には、Horizon で利用できる主要な管理と自動化の機能が含まれます。これらの機能は、VMware App Volumes、VMware Mirage、VMware User Environment Manager、vRealize Operations for Horizon を活用して、ユーザーのコンピューティング リソースを統合、制御、調整、保護します。Horizon 製品で、単一の画面からこれらの主要な機能にアクセスして、デスクトップ、アプリケーション、インフラストラクチャの効率的な管理が可能です。

Q：物理マシン用のイメージ管理について教えてください

A：物理マシンと仮想マシンのイメージ管理には Mirage を利用します。Mirage の機能により、IT 部門は、エンド ユーザーが使用しているすべての物理エンドポイントにイメージを容易に展開できます。この機能は Horizon Advanced Edition と Horizon Enterprise Edition に含まれます。

Q：VMware App Volumes について教えてください

A：VMware App Volumes は、仮想デスクトップ環境へリアルタイムでアプリケーションを配信します。IT 部門は、Horizon 7 と App Volumes を使用してアプリケーションをリアルタイムで配信するシステムを構築し、すべてのアプリケーションを統合管理できます。アプリケーションは、仮想マシンやアプリケーション自体に修正を加えずに、VMDK 仮想ディスクを通じて仮想デスクトップに配信されます。また、エンド ユーザーの使用環境に影響を及ぼさずに、高速かつ低コストで仮想デスクトップにスケールアウトできます。

Q：App Volumes は公開アプリケーションをサポートしますか？

A：はい。App Volumes テクノロジーを利用してアプリケーションを公開することもできます。管理が簡素化されるだけでなく、アプリケーションの迅速なアップデートや、新しいアプリケーションの追加に使用できます。このとき、マスター テンプレートのイメージを再作成する必要はありません。

Q：User Environment Manager について教えてください

A：VMware User Environment Manager は、任意の仮想環境、物理環境、クラウドベースの環境全体で、パーソナライゼーションと動的なポリシー設定の機能を提供します。既存のインフラストラクチャを活用したスケーラブルな単一のソリューションが提供

されるため、エンド ユーザーのプロファイル管理が簡素化されます。インフラストラクチャをマッピングし (ネットワークとプリンターのマッピングを含む)、エンド ユーザーのポリシーを動的に設定できるので、より多くのユースケースを安全にサポートすることも可能です。このソリューションによって、エンド ユーザーは Windows のワークスペースやアプリケーションに迅速にアクセスでき、ユーザーの使用環境はデバイスや場所を問わずパーソナライズが可能で、一貫性も維持されます。

Q：以前に Horizon 製品や View 製品で提供されていた Persona Management はどうなりますか？

A：Persona Management は Horizon 7 製品にも含まれており、引き続きご利用いただけます。

Q：クラウド分析と運用管理機能について教えてください

A：VMware vRealize Operations for Horizon には、仮想デスクトップやアプリケーションの環境を対象としたクラウド分析と運用管理の機能があります。これらの機能を使用して、デスクトップ サービスやアプリケーション サービスの健全性、可用性、パフォーマンス、効率性を最適化できます。vRealize Operations for Horizon は Horizon Enterprise Edition に含まれており、Horizon 環境の監視に加えて、Citrix XenApp 6.5 環境や XenDesktop/XenApp 7.6 環境もサポートします。

Q：Cloud Pod アーキテクチャについて教えてください

A：Cloud Pod アーキテクチャを使用することで、Horizon VDI Pod および RDSH Pod を複数のデータセンター間で動的に移動および特定できるため、分散環境内のエンド ユーザーを効率的に管理できます。この機能は Horizon のすべてのエディションで使用できます。Instant Clone テクノロジーは、Horizon Enterprise Edition と Horizon Cloud Service™ with On-Premises Infrastructure (オンプレミス型) でご利用いただけます。

Q：VMware vSAN について教えてください

A：VMware vSAN は、Software-Defined Storage レイヤーであり、コンピューティング リソースや直接接続型ストレージ リソースをプールし、サーバに搭載されているディスクやフラッシュをクラスタ化することで、耐障害性に優れた共有ストレージを作成します。これにより、低コストのストレージを選択でき、エンド ユーザーのデスクトップごとに十分な IOPS を確保するうえで、ストレージを過剰にプロビジョニングする必要がなくなります。お客様は Horizon で vSAN を利用することにより、ストレージのプロビジョニングをさらに簡素化できます。VMware vSAN Advanced for Desktop は、Horizon Advanced と Horizon Enterprise に含まれています。

Q : NSX for Horizon について教えてください。この製品は Horizon のエディションに含まれていますか？

A : NSX for Horizon は、ネットワーク セキュリティ ポリシーをエンド ユーザーに迅速かつ容易に設定するための単体製品です。ポリシーはデバイスや場所を問わず適用され、基盤となる物理インフラストラクチャに対する変更の影響を受けません。NSX for Horizon は、Horizon のどのエディションにも含まれていません。

Q : Instant Clone テクノロジーについて教えてください

A : Instant Clone テクノロジーは、vSphere 環境内で仮想マシンを非常に迅速にプロビジョニングできる新しい手段です。Instant Clone テクノロジーでは、起動状態の親仮想マシンを静止させ、ホットクローンすることで、派生的な（子）仮想マシンを迅速に生成できます。クローンは起動した状態で生成され、親仮想マシンと同じディスクやメモリを利用します。このプロセスにより、複数の再起動と再構成が行われる従来型のクローニングで生じるサイクル時間が不要になります。また、Instant Clone テクノロジーを App Volumes および User Environment Manager と組み合わせることで、デスクトップを迅速に展開できます。このデスクトップは、ユーザーがログアウトするとデスクトップ自体は破棄されますが、ユーザーのカスタマイズ内容やユーザー データはセッション間で保持されます。

Q : Instant Clone テクノロジーは公開アプリケーションに対応していますか？

A : はい。Instant Clone テクノロジーは RDS 公開アプリケーションにも対応しています。元のマスター イメージと同じストレージおよびメモリ容量を使用して、アプリケーションのライブ コピーを作成し、ホストを素早く公開します。これにより、新しいアプリケーションや既存のアプリケーションのアップデートを多数のクローンに迅速に展開できます。展開時にダウンタイムは発生しません。拡張も非常にシンプルです。必要に応じて新しいクローンを起動して、ピーク時のニーズに対応できます。

Q : Fat Clone、Linked Clone、Instant Clone の違いについて教えてください

A : Fat Clone（完全なクローン）とは、セッション終了後も維持される仮想マシン（デスクトップ）です。各ユーザーに仮想デスクトップが割り当てられており、そのデスクトップでは、親仮想マシンやクローンに依存しないそのユーザー専用のシステムイメージが使用されます。「Linked Clone」として展開される仮想デスクトップでは、すべてのユーザーが、親仮想マシンのスナップショットから作成された共通のシステム イメージを共有します。中央のイメージが再構成された場合、ユーザーが仮想デスクトップに加えた変更は維持されません。こうしたデスク

トップはノンパーシステントとみなされます。新規の仮想デスクトップ ユーザーごとに同じシステム イメージを繰り返しコピーする必要がないため、必要なストレージ容量が大幅に削減されます。Linked Clone と同様に Instant Clone も親仮想マシンから派生しますが、プロビジョニング時間は大幅に短縮されます。これは、Linked Clone の場合とは異なり、親仮想マシンが起動状態でキャプチャされることにより、子仮想マシンを作成するときに再起動と再構成が不要になるためです。

Q : True SSO について教えてください

A : True SSO では、Identity Manager を介して Windows デスクトップにアクセスする際、Horizon デスクトップにアクセスするユーザーを Horizon 証明書を利用して認証するため、ユーザーのログインが簡素化されます。True SSO を導入する前は、デスクトップにアクセスする前に通常の Microsoft Active Directory ログイン プロンプトが表示され、Identity Manager での認証後に 2 度目のログイン手順が必要でした。

Q : Blast Extreme と PCoIP の違いを教えてください

A : Blast Extreme は、H.264 プロトコルに基づく新たな画面転送テクノロジーで、Horizon ワークスペースをクライアント デバイスにリモートで提供する方法の 1 つとして利用できます。Horizon 7 では PCoIP を利用するデバイスも引き続きサポートしますが、Blast Extreme が追加されたことにより、ユースケースに応じて最適な画面転送テクノロジーを選択できます。

Q : 現在 Windows 10 をサポートしている Horizon 製品を教えてください

A : Horizon 7 と Horizon Cloud の両方で Windows 10 がサポートされています。

Q : SysTrack Desktop Assessment について教えてください

A : SysTrack Desktop Assessment (SDA) は無償で提供されるセルフサービスのプラットフォームで、エンド ユーザーの使用環境、インフラストラクチャ、アプリケーションの包括的な視認性を提供します。また、ユーザー セグメントに基づいて推奨されるソリューションを提示し、最適な VMware 製品および Horizon 製品の導入を支援します。

Q : VMware Horizon 7 の購入方法について教えてください

A : VMware Horizon 7 は、VMware 認定リセラーからご購入いただけます。詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.vmware.com/jp/products/horizon>

Q： Horizon の旧バージョン（VMware Horizon View など）を使用している場合は、どうすればよいですか？

A： 有効な VMware のサポートおよびサブスクリプション（SnS）契約をお持ちのお客様は、Horizon の最新バージョンに無償でアップグレードできます。現在 SnS 契約を結んでおらず、再契約を希望される場合は、<http://www.vmware.com/jp/support/contacts.html> を参照してください。

Horizon 7 のライセンス

Q： Horizon 7 のライセンスについて教えてください

A： Horizon Advanced Edition、Horizon Enterprise Edition、Horizon Apps には、次の 2 種類の無期限ライセンス モデルがあります。

- **指定ユーザー単位（NU）のライセンス：** 仮想環境において、従業員が終日特定の仮想マシンにアクセスする環境に適しています。
- **同時接続単位（CCU）のライセンス：** 仮想環境において、学生やシフト勤務の従業員など、多数のユーザーがマシンを終日共有する環境に適しています。同時接続単位は、パワーオン状態の仮想マシンおよび接続中の仮想デスクトップ セッションを指します。

注： Horizon Standard Edition の場合は、同時接続単位のライセンスのみをご購入いただけます。

バンドル内のコンポーネントを複数のユーザーに振り分けることは、指定ユーザー単位の場合も、同時接続単位の場合もできません。バンドルには複数のコンポーネントが含まれますが、それらすべてを含めて単一の製品とみなします。たとえば、同時接続単位のライセンス モデルで、あるエンド ユーザーが仮想デスクトップのみに接続している場合、バンドル内のほかの関連コンポーネント（VMware Identity Manager や Mirage など）も、このユーザーに割り当てられているとみなされ、ほかのユーザーに権限を付与することはできません。

例： 組織 A が Horizon Enterprise Edition の同時接続単位のライセンスを 100 個保有しているとします。ユーザー A が仮想デスクトップに接続し、同時接続ライセンスを 1 つ利用します。ユーザー A は Mirage を使用していません。この場合、別のユーザーが Mirage を使用することはできません。ユーザー A がバンドル内のすべてのコンポーネントに接続していなかったとしても、バンドル内の 1 つのコンポーネントに接続した時点で、セッションが接続されている間は、ほかのコンポーネントもデフォルトでそのユーザーに割り当てられます。

指定ユーザー（NU）と同時接続ユーザー（CCU）の使い分け

主に使用するのが Horizon 仮想デスクトップであり、エンドユーザーがシフト制でデスクトップにアクセスする場合（たとえば、日中に 200 人、夜間に 200 人がアクセスするが、400 人全員が同時にアクセスすることはない場合）、かつ 200 個を超える Mirage または Identity Manager のインスタンスが同時に必要になることが予測されない場合は、Horizon の CCU ライセンスを 200 個購入されることを推奨します。

主に使用するのが View であり、ユーザーがシフト勤務ではない場合（たとえば、400 人の従業員全員が同時に接続する場合は、NU ライセンスが適しています。この場合、400 人の従業員全員に Mirage および Identity Manager の利用権限を付与できます。

主に使用するのが View であり、シフト勤務の従業員が日中に 200 人、夜間に 200 人いて、加えてシフト勤務ではない従業員 50 人が Mirage を必要としている場合は、Horizon の CCU ライセンスを 200 個と Mirage の単体ライセンスを 50 個購入されることをお勧めします。

同時接続： Mirage、Identity Manager（旧称 VMware Identity Manager Standard Edition）、Fusion Pro

Horizon Advanced Edition と Horizon Enterprise Edition は同時接続単位のライセンスで購入できますが、バンドル内の Mirage と Identity Manager の各コンポーネントは、指定ユーザー単位（Mirage、Identity Manager）またはデバイス単位（Mirage、VMware Fusion® Pro）でのみ利用できます。たとえば 400 人の従業員のうち 200 人が日中、200 人が夜間に出勤し、この従業員全員に View と Mirage へのアクセスを提供する場合、2 つの選択肢があります。Horizon Advanced Edition の CCU ライセンスを 200 個と VMware Mirage を 200 パック購入するか、Horizon Advanced Edition の CCU ライセンスを 400 個購入するかのいずれかです。多くの場合、前者のほうが高い費用対効果を見込めます。ただし、どちらを選択する場合でも、400 人の従業員用に Mirage のライセンスが 400 個必要になります。これは、同時接続数が常に 200 人以下であっても同じです。Identity Manager についても同様です。

Q： 各デバイスに適した Horizon Client の入手方法とその価格について教えてください

A： 各種デバイス向けの Horizon クライアントは、Horizon ソリューションの一部として含まれており、製品のダウンロード用ポータルから追加コストなしで入手できます。

- iOS 向け Horizon Client は Apple iTunes Store からダウンロードできます。
- Android 向け VMware Horizon Client は Google Play Store からダウンロードできます。

Q : VMware Horizon 100 Pack に含まれているのは、VMware vSphere のどのエディションですか？また、含まれるライセンス数はいくつですか？

A : Horizon のすべてのエディションには、vSphere Enterprise Plus Edition™ と同じ機能を持つ VMware vSphere® Desktop が含まれています。vSphere Desktop は同時接続単位でライセンスが供与されるので、ライセンスを供与された同時接続数に必要な台数のホストを展開できます。

Q : サードパーティ製または自社開発のコネクション ブローカーを所有していますが、VMware のインフラストラクチャ上にデスクトップを導入したいと考えています。この場合はどうしたらよいですか？

A : パワーオン状態のデスクトップ仮想マシン単位で vSphere Desktop をご購入いただけます。

Q : Horizon 7 のライセンスで実行している vSphere ホストと、単体製品のライセンスで実行している vSphere ホストを混在させることはできますか？

A : 混在環境での使用は推奨されません。ディザスタ リカバリ時に、VMware vSphere vMotion® によって、Horizon のライセンスで実行している vSphere ホストにサーバのワークロードがライブマイグレーションされる可能性があります。これはエンド ユーザー使用許諾契約書の規定違反になります。環境を完全に分離するか、混在環境を維持する場合は vSphere、vCenter Server、Horizon の各ライセンスを単体で必要数購入することをお勧めします。

Q : Horizon 7 のオンプレミス ライセンスを購入した場合、Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure (オンプレミス型) で使用できますか？

A : いいえ。クラウドホスト型管理用の Horizon 7 Cloud Connector を利用するには、Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure (オンプレミス型) を購入する必要があります。

Q : アドオンは購入可能ですか？

A : はい。vSphere のライセンス数に余裕がある場合は、Horizon Standard、Horizon Advanced、Horizon Enterprise のアドオンをご購入いただけます。

Q : Horizon の各エディションに含まれている vSphere コンポーネントで、ほかのサーバワークロードを実行できますか？

A : Horizon に含まれる vSphere と vCenter Server の各コンポーネントは、デスクトップ環境での使用のみに限られています。デスクトップ仮想マシンは、次のオペレーティング システムを実行している仮想マシンと定義されています。

Windows 95/98、Windows 2000 Professional、Windows XP Professional、Windows Vista Ultimate、Windows Vista Business、Windows Vista Enterprise、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、Windows 10、Windows Server 2008/2012

仮想デスクトップ インフラストラクチャを構成するコンポーネントには、View Manager™、VMware vCenter Server® (または別のコネクション ブローカー)、ホストされるデスクトップ仮想マシンのみで使用される任意のデスクトップ管理ツール、パフォーマンス監視ツール、自動化ツールがあります。

Q : Horizon Standard Edition と Horizon Standard Add-on を同じ環境内で実行することはできますか？

A : Horizon には、End-to-End のデスクトップ環境に必要なすべてのコンポーネントが含まれており、ライセンスは同時接続単位で供与されます。Horizon Standard Add-on SKU では、Horizon Manager に含まれるデスクトップ コンポーネントのみが提供されます。購入した Horizon Add-on の同時接続単位のライセンスには、単体の vSphere ライセンスが必要で、Horizon に含まれる vSphere のエディション上への展開はできません。Horizon に含まれる vSphere Desktop は、購入した同時接続単位のライセンスに使用が制限されているためです。ライセンスの管理を容易にするには、バンドルまたはアドオンのいずれか一方を選択することをお勧めします。

Q : Horizon Add-on は、vSphere の任意のエディションで実行できますか？

A : Horizon Add-on SKU を実行しているお客様は、ワークロードを vSphere Desktop または vSphere Enterprise Plus Edition™ で実行できますが、vSphere Standard Edition™ でワークロードを実行した場合は一部の機能を使用できない可能性があります。混在型のワークロードの場合は、vSphere Desktop では実行できません。プロセッサ単位のライセンスが付与されている vSphere 環境で実行する必要があります。デスクトップ ワークロードのみの場合は vSphere Desktop で実行できますが、vSphere Desktop のライセンス数に余裕があり転用できる場合を除き、vSphere Desktop と vCenter Server for Desktop を含むフル バージョンの Horizon バンドルを購入することが推奨されます。

Q：所持しているライセンスが vSphere Desktop 用であるかどうかを確認する方法はありますか？また、そのライセンスはどのように付与されますか？

A：Horizon に含まれる vSphere ライセンスは、クライアントとサーバのオペレーティング システムのデスクトップおよびアプリケーションのワークロード専用です。これを追跡および監査できるように、ライセンス ポータルには「vSphere Desktop」と表示されます。vSphere Desktop は、購入した Horizon の指定ユーザー数または同時接続数のライセンスが付与されます。

Q：Horizon 7 で vSAN for Desktop のライセンスはどのように付与されますか？

A：vSAN Advanced for Desktop は、Horizon Advanced Edition と Horizon Enterprise Edition の機能です。vSAN は、購入した Horizon の指定ユーザー数または同時接続数のライセンスが付与されます。

Q：Horizon 7 で User Environment Manager (旧称：Immidio) のライセンスはどのように付与されますか？

A：User Environment Manager のライセンスは、Horizon Enterprise で指定ユーザー単位または同時接続ユーザー単位で付与され、バンドル製品全体のライセンスに直接マッピングされます。同時接続設定で、契約したアクティブおよびパワーオン状態のセッション数の最大値を超えないようにする必要があります。Citrix 製品を使用しているお客様または物理環境およびクラウドホスト型環境の管理が必要なお客様は、このサービスを単体製品としてもご購入いただけます。

Q：Horizon 7 で App Volumes (旧称：Cloud Volumes) のライセンスはどのように付与されますか？

A：App Volumes のライセンスは、Horizon Enterprise で指定ユーザー単位または同時接続ユーザー単位で付与され、バンドル製品全体のライセンスに直接マッピングされます。同時接続設定で、契約したアクティブおよびパワーオン状態のセッション数の最大値を超えないようにする必要があります。また、Citrix 環境での使用をご希望の場合は、単体製品としてもご購入いただけます。

Q：Horizon 7 で Horizon for Linux のライセンスはどのように付与されますか？

A：Horizon for Linux のライセンスは、指定ユーザー単位または同時接続ユーザー単位で付与され、バンドル製品全体のライセンスに直接マッピングされます。同時接続設定で、契約したアクティブおよびパワーオン状態のセッション数の最大値を超えないようにする必要があります。この機能は、Windows のセッションと Linux のセッションの両方を利用するユーザーのサポート向けに、Horizon Enterprise Edition でのみ提供されます。また、単体製品として、同時接続ユーザー単位でも利用することが可能です。

Q：Horizon 7 で VMware Mirage のライセンスはどのように付与されますか？

A：Mirage は Horizon Advanced Edition と Horizon Enterprise Edition に含まれる機能です。Mirage は、購入した Horizon の指定ユーザー数または同時接続数のライセンスが付与されます。ただし、Mirage を同時接続単位で使用することはできません。200 個のライセンスを購入した場合、ライセンスが指定ユーザー単位と同時接続単位のどちらであっても、Mirage のライセンスは指定ユーザー単位でのみ展開できます。展開すると、常にアクティブで、接続された状態が維持されます。

Q：Mirage を使用している場合、Horizon FLEX にアップグレードする方法はありますか？

A：Horizon FLEX™ は、詳細なポリシー設定によって、個人所有デバイスを利用するユーザーや、オフラインの MacBook ユーザーおよび Windows ラップトップ ユーザーの統合管理をサポートしながら、エンド ユーザーにローカルのコンピューティングリソースを提供する製品で、Mirage とは異なります。Mirage から Horizon FLEX にアップグレードすることはできません。

Q：Horizon 7 で ThinApp のライセンスはどのように付与されますか？

A：ThinApp を Horizon 7 の一部として購入した場合、指定ユーザー単位、デバイス単位、または同時接続単位でライセンスが付与されます。Horizon 7 に含まれる ThinApp クライアントのライセンスは、物理マシンまたは仮想マシンに展開できます。そのため、個別に購入した ThinApp ライセンスと、Horizon の一部として購入したライセンスは、区別なく使用できます。

Q：Horizon のユーザーが、App Volumes Enterprise Edition (旧 Horizon Application Management™ Bundle) を購入することはできますか？

A：VMware App Volumes Bundle には、ThinApp、App Volumes、User Environment Manager、vRealize Operations for Published Applications™ が含まれています。このバンドルに含まれる vRealize Operations は、Citrix XenApp 6.5 環境と XenDesktop/XenApp 7.6 環境のみをサポートしています。Horizon をご利用のお客様もこのバンドルを購入いただくことはできますが、バンドルに含まれている vRealize Operations のインスタンスは Horizon 環境をサポートしていないことにご注意ください。

Q：単体で購入できる製品を教えてください

A：Mirage、ThinApp、App Volumes、User Environment Manager、vRealize Operations for Horizon、vSphere for Desktop、Horizon for Linux Desktop、vSAN を単体製品としてご購入いただけます。

Q：Mirage、App Volumes、User Environment Manager、または Identity Manager を使用している場合、Horizon Advanced または Horizon Enterprise にアップグレードできますか？

A：はい、Horizon Advanced または Horizon Enterprise にアップグレードできます。

Q：ThinApp から Horizon 7 のエディションにアップグレードすることはできますか？

A：はい、2段階のプロセスでアップグレードできます。まず、Thin Client Suite または Horizon Add-on のいずれかにアップグレードしてから、Horizon Standard Edition にアップグレードできます。

Q：無期限ライセンスを所有している場合、これらのライセンスをサブスクリプションベースまたは期間ベースのライセンスに変換できますか？

A：現時点では、そのようなケースはサポートされていません。

Horizon のサポート

Q：VMware Horizon で利用可能なテクニカル サポートについて教えてください

A：vSphere、vCenter Server、View Manager を含む、Horizon の各エディションに含まれるすべてのコンポーネントには、1日12時間、週5日体制の Basic Support（ベーシック サポート）、または24時間365日体制の Production Support（プロダクション サポート）の購入が必要です。さらに、Production Support（プロダクション サポート）を補完する、Business Critical Support（ビジネス クリティカル サポート）を購入いただくことも可能です。Business Critical Support（ビジネス クリティカル サポート）では、お客様の Horizon インストール プロファイルを作成および維持し、定期的にアカウント レビューを実施する専用チームのサービスが提供されます。Horizon に関するコンサルティングや Horizon の導入時には、VMware のプロフェッショナル サービスもご利用いただけます。

詳細については、<https://www.vmware.com/jp/support/horizon-view.html> をご覧ください。

Q：Horizon 7 を利用する際、VMware のサポート契約を購入する必要がありますか？

A：Horizon のメリットを迅速に享受していただくため、エディションを問わず Horizon の購入時に、少なくとも1年間の VMware Basic Support（ベーシック サポート）およびサブスクリプションを購入していただく必要があります。Production Support（プロダクション サポート）にアップグレードしたあと、追加で Business Critical Support（ビジネス クリティカル サポート）

を購入することもできます。VMware のすべてのサポートは、複数年契約が可能です。この場合は割引価格が適用されます。

Q：Desktop の提供終了（EOA）とライフサイクル管理についての情報はどこで入手できますか？

A：VMware Enterprise Desktop の EOA とサポート ポリシーについては、<https://www.vmware.com/jp/support/policies/enterprise-desktop/faqs.html> を参照してください。

Horizon Cloud

Q：Horizon Cloud について教えてください

A：Horizon Cloud は、デスクトップとアプリケーションを対象としたマネージド クラウド サービスです。オンプレミスのデスクトップおよびインフラストラクチャ向け（Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure（オンプレミス型））または Horizon Cloud Service with Hosted Infrastructure（クラウドホスト型）の展開オプションが用意されています。

Q：Horizon Cloud Service with Hosted Infrastructure（クラウドホスト型）について教えてください

A：VMware Horizon Cloud Service with Hosted Infrastructure（クラウドホスト型）は、デスクトップやアプリケーションを、管理が容易な統合クラウド サービスとして場所やデバイスを問わずに低コストで迅速に展開できる、VMware が管理するソリューションです。エンド ユーザーが任意のデバイスやブラウザから仮想デスクトップに安全にアクセスできる一方で、IT 部門は、既存のスキルやツールを使用して、環境を容易に管理できます。信頼性に優れた VMware vSphere を基盤としており、IT 部門が求める信頼性、セキュリティ、パフォーマンスを実現し、ビジネスに不可欠な VMware のサポートを提供します。Horizon Cloud Service with Hosted Infrastructure（クラウドホスト型）の詳細については、<http://www.vmware.com/jp/cloud-services/desktop.html> を参照してください。

Q：Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure（オンプレミス型）について教えてください

A：Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure（オンプレミス型）は、クラウド環境向けに最適化された新しいアーキテクチャです。クラウドベースの管理機能、インテリジェントなオーケストレーション、ハイパーコンバージド インフラストラクチャを利用して、仮想デスクトップと仮想アプリケーションの提供方法を大きく変革します。これにより、デスクトップとアプリケーションを、プライベート クラウド、パブリック クラウド、またはその両方の間で、費用対効果に優れたシンプルな方法で展開、拡張、移動できます。

Q: Horizon 7、Horizon Cloud Service with Hosted Infrastructure (クラウドホスト型)、Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure (オンプレミス型) の選択基準を教えてください

A: お客様のニーズに合わせた IT 利用モデルと、クラウド サービスの導入状況に応じて、最適な Horizon 製品を選択いただけます。プライベート クラウドのオンプレミス展開をご希望で、ハイブリッド環境やサブスクリプション方式の料金プランが不要な場合は、Horizon 7 が適しています。オンプレミス環境とクラウドホスト型環境の両方に存在するデスクトップ キャパシティのプール全体を統合管理できるハイブリッド環境が必要な場合は、Horizon Cloud Service with On-Premises Infrastructure (オンプレミス型) が適しています。デスクトップ キャパシティがクラウドに存在する完全なクラウドホスト型の環境が必要な場合は、Horizon Cloud Service with Hosted Infrastructure (クラウドホスト型) が適しています。

Horizon FLEX

Q: Horizon FLEX について教えてください

A: Horizon FLEX は、Horizon 製品群を補完するソリューションです。データがローカルに保存されるため、エンド ユーザーがオフラインや移動中でも作業できる点が特徴です。バンドル製品になっており、FLEX ポリシー サーバ、FLEX クライアント (Mac 用に Fusion Pro、PC 用に Workstation Player)、イメージ管理機能が含まれます。Horizon FLEX の一般的な使用例として、個人所有の PC を持ち込む場合や、仮想デスクトップ インフラストラクチャの導入が現実的ではない環境でのオフライン作業、臨時社員や契約社員による使用、開発環境やトレーニング環境、地方オフィスなどでの使用が考えられます。

Horizon 製品の機能

主な機能	オンプレミス インフラストラクチャでのオンプレミス管理	Horizon Cloud with On-Premises Infrastructure (オンプレミス型)	Horizon Cloud with Hosted Infrastructure (クラウドホスト型)
組み込みのセキュリティが必要	○	○	○
各種セキュリティ/コンプライアンス規則への対応	○	○	
パフォーマンス上の理由から、デスクトップおよびアプリケーションサービスをエンド ユーザーに近い環境から提供する必要がある	○	○	
設定の容易さ		○	○
予測可能な支払/コスト		○	○
容易な日常的管理	○	○	○
自社の IT 部門による制御	○		
エンド ユーザー数の変化に対応する迅速なバースト アップまたはバースト ダウン			○
インフラストラクチャ/SDDC に関する既存の知識とスキルの活用	○		
ソリューションの導入と管理の完全なアウトソーシング			○

